

① 関係自治体	静岡県・静岡市		
② タイトル			
(ふりがな)	にほんだいらがつむぐゆうきゅうのれきしぶんかかいろう		
日本平が紡ぐ悠久の歴史文化回廊			
③ ストーリーの概要			
<p>四周眺望の地、日本平。世界文化遺産の富士山を仰ぎ見る一方、眼下にはその構成資産となる三保松原など、古今名だたる景勝地を視界に収める歴史文化資産の展望回廊である。</p> <p>日本平は、徳川家康ゆかりの久能山東照宮を始めとする歴史文化資産の集積地でもある。その歴史は神話の時代に遡り、悠久の歴史の中でその眺望は人々を引き付けてきた。眺望に魅せられた古今の文化が日本平で受け継がれている。</p>			
			
日本平夢テラスからの眺望		久能山東照宮拝殿	
④ 代表連絡先			
担 当	静岡県スポーツ・文化観光部文化局文化財課		
電 話	054-221-3183	FAX	054-250-2784
E-mail	bunkazai@pref.shizuoka.lg.jp		
住 所	〒420-8601 静岡県静岡市葵区追手町9-6		



ストーリー

○名勝日本平

静岡県には、各地に変化に富んだ地形と豊かな自然、陸海の道を行く人々の交流に育まれた有形・無形の多様な文化財が残されている。県内には、歴史文化資源のホットスポットと言える文化財の集積地が幾つか見られるが、日本平もその一つである。

景勝地として知られる日本平は、静岡県のほぼ中央に位置する標高約 300mの独立丘陵「有度山」の山頂及び一帯の呼び名である。日本平の特質は、四周の眺望にある。明治時代から昭和にかけて活躍したジャーナリスト徳富蘇峰は、大正時代にこの地を訪れ、その眺望を絶賛した。徳富蘇峰による紀行文の新聞掲載を機に、日本平は観富の名所として全国に知られるようになり、昭和 25 年（1950 年）には観光地百選の平原部第 1 位、昭和 55 年（1980 年）の日本観光地百選コンクールでも第 1 位となった。昭和 34 年（1959 年）には、風致景観の優れた展望地点であることから、国の名勝に指定された。

○歴史と文化の展望回廊

日本平からの眺めでまず目を引くのは、北東に聳える富士山と眼下の三保松原、清水港であろう。三保松原越しには、駿河湾や伊豆半島が望め、目を西に転じれば静岡のまちなみと南アルプスの山々、南西方向には、御前崎までを展望できる。視界に入る歴史文化の所産は枚挙にいとまがないが、優れた眺望や景観を誇る名勝地・景勝地がその中に多く含まれることは、日本平の眺望の特徴である。

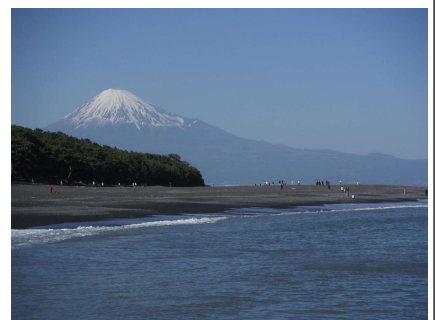
富士山、三保松原は世界文化遺産の構成資産であるとともに、風致景観の優れた国指定の名勝である。また、ユネスコ世界ジオパークに認定されている伊豆半島の南伊豆町から西伊豆町にかけての海岸は、地質的多様性と変化に富んだ地形が特徴的な名勝地でもある。駿河湾奥の海岸沿いに延びる深緑の一筋は、千本松原である。沼津市千本浜海岸は、穏やかな気候と優れた景観から、明治時代になると政財界の要人の別荘地となった。

富士山の手前には、絶景が浮世絵の題材となった薩埵峠があり、その左手には清見寺の伽藍を望むことができる。清見寺は、江戸時代、朝鮮通信使や琉球使の接待が行われた。朝鮮通信使は徳川家康の外交政策により実現した日韓の友好交流である。清見寺を訪れた朝鮮通信使は、住職と漢詩により文化的な交流を行い、庭園を含めた周辺景観や清見寺からの眺望は、詩を彩る素材であった。日本平は、古今名だたる景勝地を望む展望回廊である。

なお、日本平の景観は、山腹に広がる茶畑がアクセントとなっている。静岡は、江戸時代からの茶所であったが、明治時代に茶が重要な輸出品となると、生産に一層の力が入れられた。静岡の街中に集積された茶は、清水港から出荷され、輸送力拡大のため静岡―清水間に鉄道が敷設された。沿線に開設された遊園地の PR ソングが昭和 2 年（1927 年）につくられた「ちゃっきりぶし」である。作詞



茶畑越しの眺望



三保松原



清見寺境内

をした北原白秋^{きたはらはくしゅう}は、日本平付近の茶畑を見て、鉄刈による音を歌詞に取り入れた。日本平の景観に由来する歌曲である。

○悠久の歴史

「日本平」の名が広く知られるようになったのは近代以降であるが、その眺望は古くから様々な人々を引きつけてきた。

「日本平」の名の由来は、神話の時代に遡る。『日本書紀』には、日本武尊が東征の折、駿河の地で火攻にあうことが記される。賊平定後、山頂から四方を眺めたことが日本平の名の由来と言われる。日本武尊が活躍したとされる時代は、古墳時代にあたる。古墳は日本平の麓付近にも作られた。多くは後世の開発で失われたが、6世紀初頭に築かれた前方後円墳の瓢箪塚古墳^{ひょうたんづか}は、有度山に現存する最古の古墳である。県立美術館周辺や付近の公園にも7世紀頃の古墳が数基残る。古墳を築く際は、視覚的な効果が考慮されるという。見る、見られる場所として日本平が選ばれたのである。



久能山東照宮拝殿



日本平夢テラスで紹介される

久能寺経

○王朝文化と戦国武将

日本平の眺望は、戦国武将も注目した。駿河に侵攻した武田氏は、現在、久能山東照宮が所在する地に、水軍の城、久能城を築いた。駿河湾を見渡せることがこの地が選ばれた理由である。

久能城の築城に当たり武田氏は、この地にあった久能寺を東の山裾に移した。久能寺は、明治16年(1883年)山岡鉄舟^{やまおかてっしゅう}が再興したことで寺名が鉄舟寺と改められた。鉄舟寺には、鎌倉時代の木造文殊菩薩坐像等、様々な寺宝が伝わるが、特筆すべきは、「久能寺経」である。久能寺経は、各巻の巻末に書きとめられた名前から、鳥羽法皇の皇后・待賢門院^{たいけんもんいん}を中心とする宮廷の人々の書写といわれる。見返しの大和絵、金銀の切箔は、平安王朝末期の貴族の美意識を今に伝える華麗な装飾経である。

鉄舟寺からは、右手に三保半島、左手に富士山を望む。江戸時代に司馬江漢^{しばこうかん}が描いた「駿河湾富士遠望図」は久能寺(現在の鉄舟寺)からの眺望とされる。また、鉄舟寺の南にあり、大ソテツのある龍華寺^{りゅうげ}からの眺望は、明治の文豪高山樗牛^{たかやまちょぎゅう}に愛された。共に優れた眺望を持つ寺院である。

久能城は、武田氏撤退後は、徳川氏の城となり、元和2年(1616年)に徳川家康が薨去すると城としての役割を終え、遺言により家康はこの地に葬られた。翌年、2代将軍秀忠により、家康を祀る久能山東照宮が創建された。久能山東照宮には、家康の遺品を始め、歴代将軍が奉納した品々が伝来する。

○歴史を紡ぐ

日本平の眺望は、悠久の時の中で多くの人を引きつけ、歴史を刻んできた。眺望は、日本平とその周辺に文化財が集積する原動力でもあった。現在は、美術館や舞台芸術公園などの文化施設も集う。

静岡県では、2023年「東アジア文化都市」が開催され、文化を通して静岡県から東アジアを眺望するとともに、日本平で展開する様々な文化が海外からも注目されるなど、日本平の歴史にも新たなレガシーが刻まれた。日本平と山麓の文化財、様々な文化施設を巡る旅路は、日本平の眺望に魅せられた古今の文化に触れる旅路である。日本平で、「歴史文化の宝庫しずおか」を体感してみましょう。

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
1	にほんだいら 日本平	国指定 (名勝)	四周を眺望する景勝地。山頂の夢テラスと展望回廊からは、360°の雄大な景色を望む。	静岡市 駿河区・清水区
2	みほのまつばら 三保松原	国指定 (名勝)	世界文化遺産「富士山」の構成資産の一つ。砂嘴にうち寄せる波と松越しの富士山は、我が国を代表する絶景。	静岡市 清水区
3	しみずこう 清水港	未指定 (文化的景観)	マグロの水揚げ量日本一を誇り、古くは江尻湊と呼ばれた海上交通の要所。集荷した木材を積み込む際に使われた鉄道施設「清水港テルファー」は国登録有形文化財。	静岡市 清水区
4	さったとうげ 薩埵峠	市指定 (名勝)	万葉の時代から知られた街道の難所を安全に越えるため17世紀に峠を越えるルートが整備された。安藤広重(歌川広重)の浮世絵そのままの景色が望める。	静岡市 清水区
5	ちょうせんつうしん し い せ き 朝鮮通信使遺跡 (興津清見寺境内)	国指定 (史跡)	徳川将軍の代替わりごとに朝鮮から派遣された通信使の休息場所であった清見寺では、通信使が詠んだ漢詩が残されている。	静岡市 清水区
6	せいけんじていえん 清見寺庭園	国指定 (名勝)	江戸時代初期の作庭と伝えられ、朝鮮通信使も絶賛した名園。	静岡市 清水区
7	ひょうたんづかこふん 瓢箪塚古墳	未指定 (史跡)	6世紀初頭の築造といわれる墳丘長約50mの前方後円墳。	静岡市 清水区
8	くのうざんとうしょうぐう 久能山東照宮 本殿・石の間・拝殿	国指定【国宝】 (建造物)	東照大権現の神号を朝廷から贈られた家康のため、2代将軍秀忠により造営された総漆塗、極彩色の社殿。また、唐門をはじめ13棟は重要文化財。	静岡市 駿河区
9	とくがわいえやすかんけいしりょう 徳川家康関係資料 73種 一括	国指定 (美術工芸品)	徳川家康の奉納品として東照宮に伝来する文書及び遺品類。 このほか、久能山東照宮には家康が着用した具足類、2代将軍秀忠が奉納した銘真恒の太刀(国宝)を始めとする歴代の将軍が奉納した太刀等、徳川家縁の多数の国・県指定文化財が伝わる。	静岡市 駿河区

10	くのをざん 久能山	国指定 (史跡)	東照宮建立以前の久能山には、武田信玄が築いた久能山城があった。それ以前は、推古天皇の代に開かれた伝承を持つ久能寺であった。	静岡市 駿河区
11	もくぞうもんじゅぼさつざぞう 木造文殊菩薩坐像 【通常非公開】	県指定 (美術工芸品)	12世紀後半に遡る優品。鉄舟寺所有。鉄舟寺はもとは久能寺といい、武田信玄の駿河侵攻により麓に降ろされた。明治時代に山岡鉄舟により再興され、名を鉄舟寺に改められた。	静岡市 清水区
12	ほけきょう くのをじきょう 法華経 (久能寺経)	国指定【国宝】 (美術工芸品)	平安時代末期の華麗な装飾経。鉄舟寺の所有であるが、現物は、東京国立博物館に寄託されている。日本平山頂の夢テラスでその内容が紹介されている。	静岡市 清水区
13	りゅうげじ 龍華寺のソテツ	国指定 (天然記念物)	樹齢1,100年と推定される大ソテツ。庭園は、市指定の名勝。	静岡市 清水区
14	うどきゅうりょう ちゃぼたけ 有度丘陵の茶畑 景観	未指定 (文化的景観)	有度山では江戸時代後半頃から、緩斜面を利用して茶畑が開かれた。現在、北麓は、県立美術館を始め、多くの文化施設が所在し、文化ゾーンとしての景観を形成している。	静岡市 駿河区・清水区
15	日本平のお茶	未指定 (無形民俗)	江戸時代から知られた茶どころ静岡。手揉製茶技術は、県指定の無形民俗文化財。	静岡市 駿河区・清水区

構成文化財の写真一覧

①日本平



日本平夢テラスからの眺望



日本平夢テラス

②三保松原



白砂青松と富士山



御穂神社

③清水港



清水港テルファー



清水港の幸

④薩埵峠



薩埵峠からの眺望

⑤朝鮮通信使遺跡（興津清見寺境内）



通信使の詩文が彫られた懸板

⑥清見寺庭園



⑦瓢箪塚古墳



⑧久能山東照宮 本殿・石の間・拝殿



拝殿

⑨徳川家康関係資料 73種 一括



【写真：久能山東照宮提供】

⑩久能山

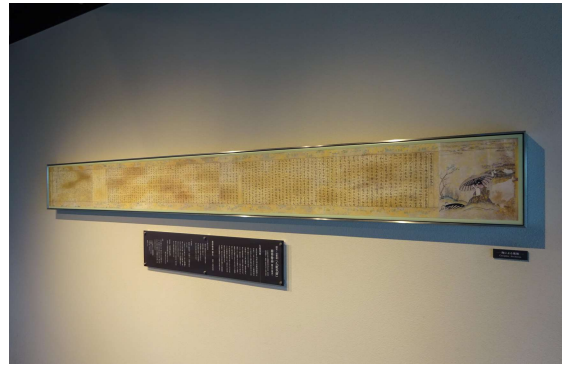


⑪木造文殊菩薩坐像（鉄舟寺）



【通常非公開】

⑫法華経（久能寺経）



日本平夢テラスでの紹介展示



鉄舟寺

⑬龍華寺のソテツ



龍華寺

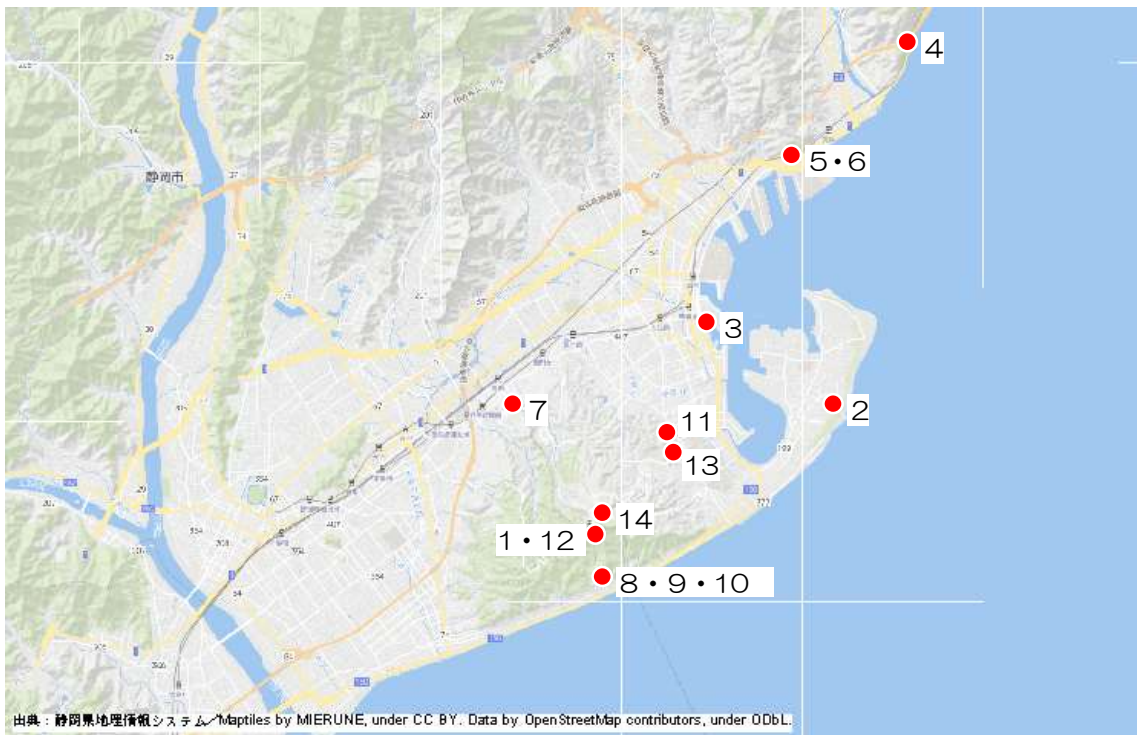
⑭有度丘陵の茶畑景観



市町の位置図

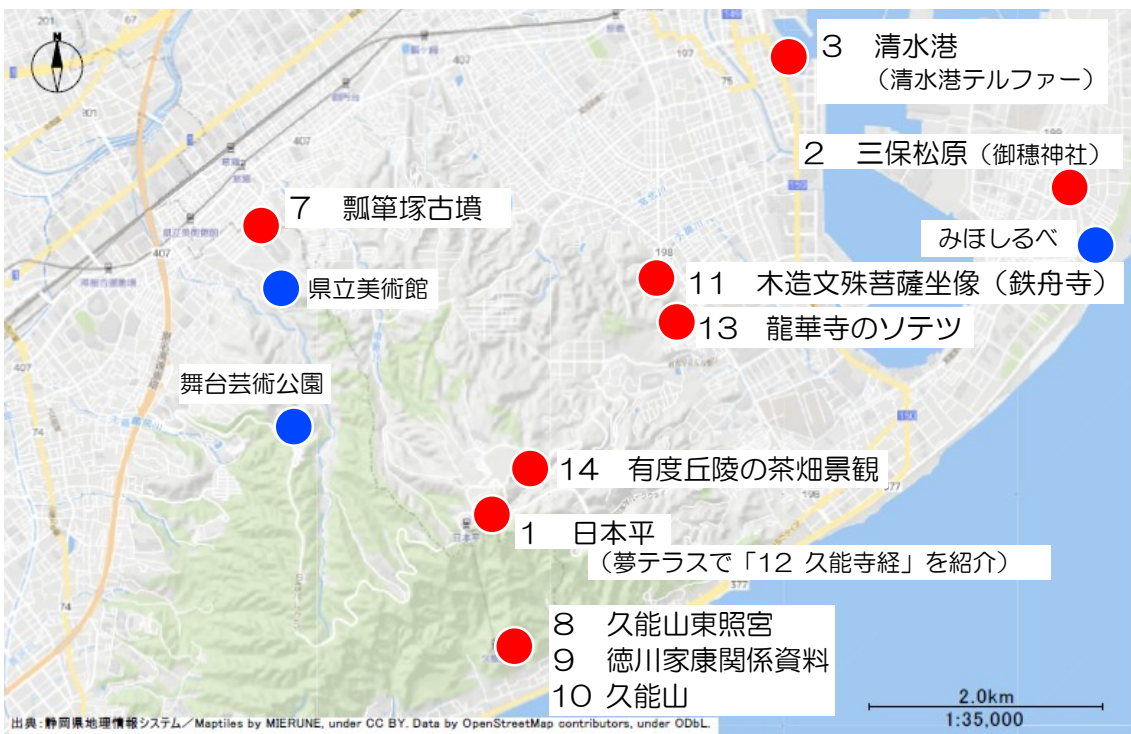


構成文化財の位置図





拡大図 1



拡大図 2